

鹿児島県 SDGs未来都市 徳之島 宝をつなぐ・宝をつくるプロジェクト

- プログラム概要** : 離島という地理的・経済的な不利や人口減少の課題もあるなかで、自然とともに生きる徳之島の生き方に幸せのあり方を見つけ、その持続に貢献する商品開発を行う。
- 実習先** : 徳之島町（鹿児島県大島郡）
- 参加人数** : 10名
- 学部学科** : 経営学科、サステナビリティ学科、法律学科、看護学科、日本文学文化学科、ウェルビーイング学科
- 実習期間** : 令和6年9月3日～9月11日
- 本学担当教員** : 梅田大輔

徳之島の幸せ持続に貢献する商品開発プロジェクトに挑戦しました。

世界自然遺産に登録されている山や海、生き物、それらの自然と共に織りなされてきた徳之島の人々の豊かな暮らし。島民の方々と関わり、豊かな自然や島の伝統を実際に体験しながら、2グループに分かれてプロジェクトを進めました。島で紡がれてきた思いを深く感じ取りながらの商品開発に努めました。

■ 宝をつくる PROJECT 01

クロウサギとの共生につながるフルーツジャム開発

[ヒアリング・取材]

徳之島町食品加工センターの美農里館さんで実際にジャムを食べさせてもらったり製造工程などをお聞きした。ふとり農園さんではパッションフルーツ、松下農園さんでは特産品のたんかんの詳細をお聞きした。町役場の米山さんには徳之島とアマミノクロウサギとの共生の始まりをお聞きした。

[コンセプトの検討]

『徳之島とつながり、そして私は自然に生きる』というコンセプトをチームで考案した。そこには島民の方と私たちの大切にしたい思い、また、商品を通じて消費者に伝えたいことを表現した。コンセプトを決める際には、その案がメンバー全員の総意であることを大切にしました。

[ネーミング]

ネーミングは、コンセプトに沿った案であること、また、パッケージデザインと組み合わせることで、この商品の特徴や徳之島の魅力が消費者に伝えられることを大切に考えた。

[パッケージデザインラフ制作]

デザインは話し合ったコンセプトをもとに作った。ジャムのパッケージという小さな部分に自分たちの伝えたい思い(クロウサギとの共生など)を詰められるだけ詰めた。

[プレゼンテーション]

美農里館さんで、ここまでの取材活動の報告と、考案したコンセプト、商品名、パッケージデザインの提案を行った。準備はプレゼンテーションの直前まで、デザイン案の仕上げと並行して行った。「新しい視点がある」といった評価のお言葉をいただくことができた。



■宝をつくるPROJECT 02

島の素材で訪れる人を癒すバーベキュー体験開発

[ヒアリング・素材]

私たちは徳之島の食材を100%使ったBBQコースの開発を行った。徳之島には様々な食材や食文化があるにもかかわらずまとめて体験できる機会がない。そこで私たちはジビエカフェ「とうぐら」の元田さんにヒアリングを行い、徳之島の特産品（イノシシ肉、サトウキビ）やメニューを考えるうえで参考となることを聞いたり実際に島にはえているアダンを収穫して自分たちで体験しながらよりよいBBQ開発へのインプットを行った。

[メニュー試作]

様々な食材を実際に味見してBBQコースを開発した。島の魚やフルーツ、イノシシ肉を使って自分たちで料理してBBQコースに取り入れるかを決めた。特にねばりと呼ばれる魚の南蛮漬けでは三枚おろしにするとところから油で揚げることまでやり、初挑戦のことが多くみんなで協力した。どの食材も新鮮で味がいいものばかりでどの料理も美味しく作ることができた。

[コンセプトの検討]

私たちが徳之島で感じた自然の豊かさと人の温かさが最大限に伝わるようなコンセプトになるようにみんなで意見を出しあった。話し合いの結果、BBQのコンセプトは「島の幸とひとつになれる」になった。「幸」の意味は2つある。1つ目は島の幸（さち）で徳之島の食材や自然の豊かさを表し、2つ目は島の幸（しあわせ）で徳之島の人の温かさや島の絆を意味するコンセプトとなった。

[プレゼンテーション]

私たちが実際に考えたBBQコースをお世話になった島の方々に体験してもらった。初めに自分たちのコンセプトを伝えたときに、皆さんが感動してくださり、妥協せず考え抜いてよかったと思った。また、焼き島バナナなど、島の人たちも知らない食べ方を提案できて、私たちならではの取り組みができたと感じた。

■宝をつなぐ PROJECT 01

島唄「下久志きょうだら」を歌い継ぐ

下久志集落の方々とともに、私たちは島唄を歌う機会をいただいた。自然に島民の輪に加わり、島の伝統文化に実際に触れる貴重な体験をすることができた。最後には、ラジオ発表の場でも学生たちだけで島唄を披露し、その経験を締めくくった。

■宝をつなぐ PROJECT 02

活動報告ラジオ番組 ライブ配信

徳之島町役場1階にラジオブースを設けライブ配信を行った。フルーツジャム開発チームとバーベキュー体験開発チームそれぞれの活動報告を行い、上手くいったことや失敗したことなどを振り返った。他にも感動体験を共有したり、ウェルビーイングを考えたり、ミニチェックアウトで各々を振り返ったりした。



■徳之島を理解するアクティビティ

〔闘牛ふれあい体験〕

「結や」として普段から徳之島の魅力を伝える福本慶太さんの案内で、花徳集落の牛小屋で牛の毛づくろいをする牛主さんを訪ねた。牛主さんと牛のいつもの関係性や暮らしぶりを間近で見ても感じられた。毛づくろいを実際にしたり、闘牛に触れ、徳之島のなくさみ文化を体験することができた。

〔海について学ぶ 磯歩き体験〕

自分たちが普段触れることのない海の生き物にたくさん触れることができた。実際に海に膝まで入って、それぞれ好きな魚や貝などを捕まえた。その後、皆で捕まえた生き物について、エコツアーガイドのしまちゃん（常加奈子さん）からお話を聞いて理解を深めた。みんな辛抱強く生き物と格闘し、徳之島の自然の偉大さを全身で感じる事ができた。

〔森について学ぶ 世界自然遺産エリア 剥岳林道を歩く〕

しまちゃん（常加奈子さん）のガイドのもと、世界自然遺産の保護エリアを歩いた。徳之島の自然を全身で感じる事ができた。いい経験になった。草木を通り抜ける風の音などが美しかった。木を色々なものに例えて見る事など自然を様々な角度から見る事ができて楽しかった。

〔アマミノクロウサギ観察ナイトツアー〕

福本慶太さんの案内で、普段は見ることができないアマミノクロウサギをはじめ、様々な生き物を間近で見ることができとても貴重な体験をした。アマミノクロウサギが暮らしている森は人も近くに住んでいる場所で人と生き物が共存している徳之島をこれからも守っていききたいと思った。

〔ビーチコーミング〕

徳之島の海はすごく綺麗でゴミなんて落ちていないと思っていたが、実際に行ってみると漂着ごみや細かいマイクロプラスチック化しつつあるプラスチックゴミがたくさん落ちていた。朝早く起きて行く海は空気も風も気持ち良かった。

■失敗したこと集

- ・コンセプトをまとめるのに時間がかかった。抽象的になりすぎても曖昧になり、何度も話し合い直した。
- ・意見のすれ違いが起こったときは、それぞれの大切にしたいことまで戻って話し合った。
- ・もずく酢をつくったが、つくり方の順番を間違えてしまった。

■今後の展開

ジャム班では徳之島公式インスタに制作までの過程を投稿し、店頭置くジャムのポップ、リーフレットを作成する。また、最終的なコンセプトである見た人が島に来たくなるようなHPも作成する予定だ。BBQ班では実際に今回メニュー化できなかった商品の試作や、さらにBBQコースをよくするためのアイデア出しを行っていく予定だ。

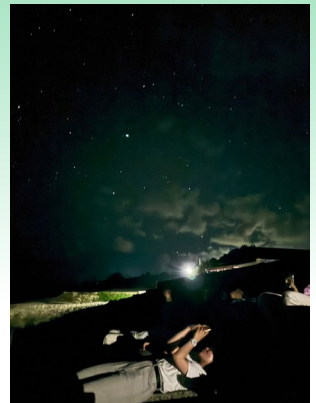
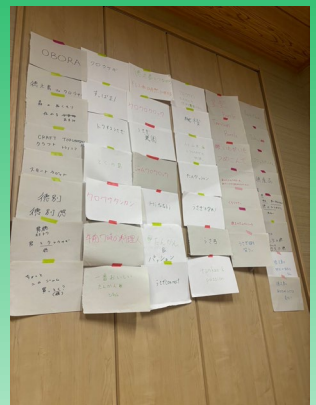
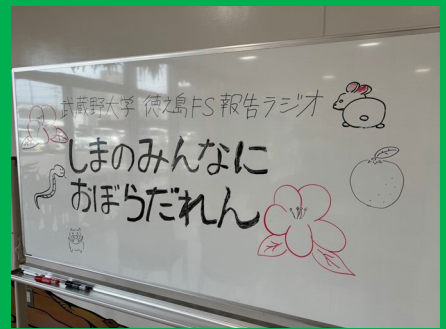


■ 実習日誌より

- ・自分の中での「出来る」のハードルが上がったことや、目の前のことに対して妥協をせずに、その事から目を背けないように成長することができた。（秦宇宙 ウェルビーイング1年）
- ・タンカン農家さんやパッションフルーツ農家さんに、栽培過程やこの地域で動物と共生する大変さを教えていただき、農家さんへの感謝の気持ちが一層高まった。それを商品名やパッケージに凝縮したい。（新田暦 経営1年）
- ・今回のFS期間中、チェックインやチェックアウトを毎日行ったり、皆でプログラムを完成させるために意見を出し合ったりしていく中で、自分の考え方やものの見方、人とのかかわり方を改めて認識できたので、今後の進むべき道、やるべきことのヒントを得ることができた。（堀江莉奈 法律1年）
- ・毎日自然に触れたり、チェックインチェックアウトを行ったことで自分自身と向き合う時間が多くなり、自分が今考えていることを素直に口に出して言語化することや、人前で話すことに抵抗が無くなり成長できたと感じた。（長優夏 看護1年）
- ・チェックインやチェックアウトで言葉が詰まったり、言語化と意思疎通が難しいことに改めて気づいて苦しんだりもしたけれど、周りのメンバーの姿勢や姿やみんなで作っていく作業の中でそのままの自分にできることを一生懸命するという基本的なことにもっと一生懸命になろうとできる気がした。（山中千歩 日本文学1年）
- ・徳之島の自然や人に触れて東京では感じることはできなかった、人とのつながりや生き物の尊さについて学ぶことができた。時間に追われ大変な時もあったが最後までやり遂げることができたのは私にとって一生の思い出。（溝口真衣 経営1年）
- ・いのかわラボで油そうめんをみんなで作り徳之島の郷土料理を実際に食べることができたのでとてもいい経験になったと思う。ジビエカフェとうぐらでは徳之島の特産物や文化を知ることができた。実際にトウガラシやアダンを食べて徳之島を味覚を通して感じる事ができた。（佐々木奎斗 法律1年）
- ・今回の活動を通して一番記憶に残っているのは、自分の成長だ。自分の掲げた目標を達成するために日々小さな目標を決めてプログラムに取り組んだ。その結果、FSが始まったころと比べて自分を変えることができた。とても貴重な体験だったので色々なところで活かしたい。（林琉士朗 ウェルビーイング1年）
- ・自然を存分に感じたと思ったら発表まで時間がなかったり、自分の気持ちと向き合えたり、できなかったことができるようになったりと、内容の濃すぎる忘れられない経験になった。（岩瀬彩名 サステナビリティ1年）
- ・初めての場所で、初めての経験をして、初めての思いに満たされる日々だった。自分の未熟さと幼さに苦しめられることも多々あったが、新たな気づきや新感覚に溢れる8泊9日は私の人生においてあまりにも美しすぎるものだった。（池田侑生 日本文学1年）

■ 受入れ先より

今回、私自身、武蔵野大の徳之島FSに初めて参加させて頂き、皆様の凄さに驚きました。初めての環境で、ハードなスケジュールで、体力的にも精神的にもきつかったと思います。その中で一人一人が成長しながら目標に向かって頑張る姿を見て、私も頑張ろうと思いました。徳之島での経験が今後の皆様の人生の糧になってくれたら嬉しいです。（徳之島町役場 企画課 吉田創志様）



インプットもアウトプットもてんこ盛りの今回の徳之島FSに全力で取り組んだ10名の皆様、本当にお疲れ様でした。徳之島を全身で感じ、真剣に学び、持てる限りを尽くして考え切ったこの9日間は間違いなく徳之島にとっても、皆様の人生にとっても肥えた土壌になるはずです。お互いに良い実を育てよう。また、徳之島で！（コーディネーター 結や 福本慶太様）

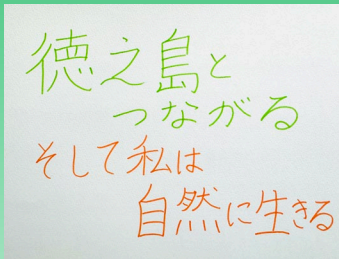
■ 講師より

10人のメンバーは最後までモチベーションを高く保ち、創造的な活動に取り組み続けてくれた。現場から収集する段階の一次情報は混沌としており、そこから商品やサービスを立ち上げるには、状況や課題を整理する思考力や、価値を伝える言語化力・デザイン力、届ける人を想像する力、メンバーやクライアントの意志をまとめる合意形成力など多くの力が求められた。「妥協するか・どうするか」といった葛藤のなか、粘り強く対話を続けてまとめ、発表にこぎつけた。徳之島町の方々からも評価のお言葉をいただくことができた。感謝したい。（講師 梅田大輔）



【提案物より】

■ フルーツジャム開発班 コンセプト



このジャムを味わう人は、徳之島と二つの意味でつながることができます。

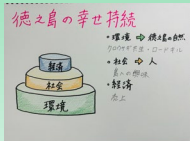
一つ目は自然です

このジャムを購入することでアマミノクロウサギとの共生に間接的に関わることができるため、島外に住んでいる人もこの島に貢献することができます。

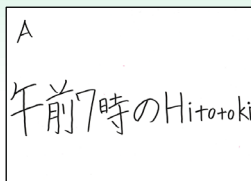
二つ目は島の人です

たんかんというこの島の特産物が使われたジャムを食べることによって、徳之島の島民の方が親しんで味わっているものと同じ味を共有することができます。

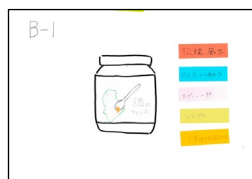
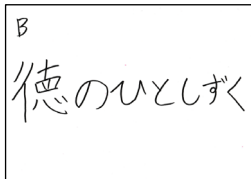
このジャムをきっかけに、私と自然とを区別した今までの考え方を改め、自然の変化に敏感になり、自然と共に生きるという意識を持ってほしいという思いを込めています。



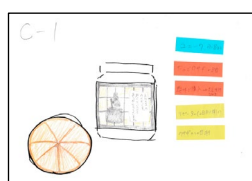
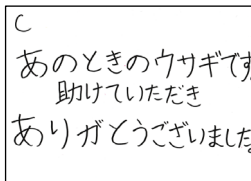
■ フルーツジャム開発班 ネーミング・パッケージ案 提案物より



午前7時というタンカン収穫の時間と、ジャムを食べる人の朝食の時間につながる。クロウサギとの共生商品であることはマーク化し、フタで表現。



たっぷりの果汁感を大切に。徳之島の風土や伝統から採れたものであることを表現。各農家さんのこだわりについても情報提供を行う。



クロウサギとの共生商品であることをメインで訴求する。タンカン農家さんの共生の施策に対するアマミノクロウサギからの「恩返し」という表現を企画。

■ バーベキュー開発班 コンセプト・体験プログラム概要

島の幸と ひとつになれる。

～五感で味わい、こころをカラフルに～

徳之島は島と人々がひとつになり、自然と人が互いに大切な存在として、繋がっている島。だから、あなたに味わっていただきたい。

「島の幸」には二つの意味を込めています。
1つ目は**島の幸(さち)**。この島の食料や自然の豊かさです。
2つ目は**島の幸(しあわせ)**。徳之島の人のあたたかさや島の絆です。

人と心を通わせる機会が少なくなっている現代の時間を忘れて、全身で島の自然や食料を噛み締め、家族のような人たちのなかで美味しい料理と徳之島の空気を味わってください。
リフレッシュすることで、自分のところが徳之島に来たときよりも、豊かで**カラフル**なものになっていただければ嬉しいです！ぜひお楽しみください！

商品名 徳之島宝物BBQコース

BBQ流れ

- ・場所：金見集落（海が見えるところ）
- 1、メニュー表の説明（四葉のクローバの部分）
- 2、食材収穫体験
- 3、追い込み漁体験（月の10日弱）
- 4、食材・料理提供（メニューの説明も同時に行う）
→肉などは自分たちで焼いてもらう
→食材提供の際や、焼いている最中に島の方々とお話できる時間を作る。（あまちゃんクラブの方々など）
- 5、グランピングから星を眺める
- 6、今日一日の振り返り（ツアーを行ってくれる島の人とともに）

収穫体験

- ・実際にBBQを行う前にアダンやシーキン、島唐辛子、島バナナ、ドラゴンフルーツ、豆、マンゴーなどの徳之島ならではの食材を自分で収穫し、島の自然に触れてもらう。（どれか一つくらい）
- ・目的
自身で収穫を体験することで、徳之島を感じてもらうだけでなく、食材のおいしさをさらにUPさせることを目的としている。収穫の際に、その島の人たち（食材を提供してくれる農家さん）と触れ合い、食材について教えてもらったりする。

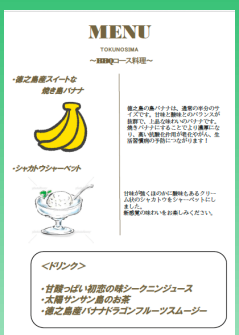
追い込み漁体験

- ・追い込み漁を実際に体験する。
- ・徳之島のきれいな海を眺めて、その海でとれる魚を島の人たちと取る。
- ・月のうちの10日弱ほどしかできないため、決め打ちで行う
- ・目的
徳之島ならではの追い込み漁を体験することで、より深く徳之島を知ってもらうとともに、文化を感じてもらう。

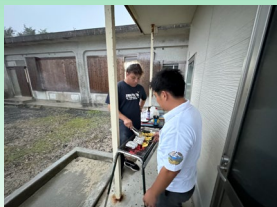
星空ウォッチング（グランピング）

- ・BBQ後にグランピングに移動し星空を眺める時間を取る
- ・グランピングとBBQをセットにする
- ・目的
徳之島の自然を感じてもらう
徳之島で見かけられない星空を眺めることで、リラックスしてもらおう

■ バーベキュー開発班 試食プレゼンテーション時の配布リーフレット



■ バーベキュー開発班 試食プレゼンテーションの様子

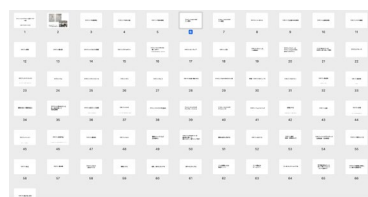


台風接近の風雨により、残念ながら公民館をお借りしての軒下での調理、室内での試食会となったが、提供したメニューはおいしいと評価をいただいた。

■ 事後授業 アイデア考案

アマミノクロウサギのファン活用アイデア
65案

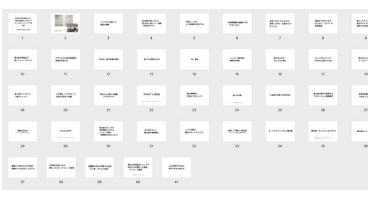
武蔵野大学 徳之島FS 2024年度生



徳之島町役場さまから相談をいただいたアマミノクロウサギのファンを活用するアイデアを考案

徳之島の幸せ持続のために今後の武蔵野生にできることやってみようことアイデア集
39案

武蔵野大学 徳之島FS 2024年度生



徳之島の幸せ持続のために今後の武蔵野生にできること・やってみようことアイデアを考案